歴史館だより　No.107　　　2013年10月発行

力士（茨城県立歴史館・明治大学博物館）

盾持ち人（茨城県立歴史館）

目　次

① 展示紹介 特別展「はにわの世界―茨城の形象埴輪とその周辺―」

② 収蔵資料紹介

一橋家資料「婚礼調度」

一橋屋敷絵図

茨城県広報広聴課から受け入れた写真資料について

③ トピックス

「はにわの世界　－茨城の形象埴輪とその周辺－」

平成 25 年 10 月 12 日（土）～11 月 24 日（日）

茨城県は，関東地方の中での埴輪を立てた古墳が多く見られる地域であり，一大生産地でもありました。県内からは王を思わせる人物をはじめ，家，猿などさまざまな形の埴輪が出土しています。

このような形を表現した埴輪を形象埴輪とよんでいますが，このような埴輪は，当時亡くなった人を古墳に埋葬する時や，それに関するお祭りの様子を表したものと考えられます。また，埴輪には服装や所作も表現されており，これらは記録には残らない人々の様子や風俗を今に伝える貴重な資料でもあります。

今回，茨城県内から出土した埴輪を中心に，本県と関連性のある関東各地から出土した埴輪を展示いたします。このことにより，茨城県の埴輪の特色を明らかにしたいと考えております。この特別展をきっかけとして，埴輪の魅力を感じていただけましたら大きな喜びです。

主な展示内容について，各章ごとに紹介します。

プロローグ　舟塚古墳のはにわ

小美玉市にある舟塚古墳は，昭和 40 年（1965）に発掘調査が行われ，古墳の一角から人物埴輪・馬形埴輪など様々な形象埴輪がまとまって出土しました。舟塚古墳の埴輪は，現在では茨城県を代表する一群として全国的にも知られています。近年になり，舟塚古墳について，埴輪をはじめとする資料の見直しが行われました。その結果，これまで県内では見つかっていなかった横坐りのできる馬の埴輪が確認されたり，力士の埴輪の全身像が復元されたりしました。ここでは，新たにわかったことをふくめ，舟塚古墳の埴輪を紹介します。

横板をつけた馬
明治大学博物館

力士
茨城県立歴史館・明治大学博物館

第１章　王者とその周辺

正装した男子の埴輪は，古墳に埋葬された人物あるいはその後継者など，葬送や儀式のなかで主要な役割を果たした王と思われる人物の姿を示したものです。また，彼らが生活した居館も埴輪として古墳に置かれていました。

一方で，冑をかぶり甲を身にまとった武人の埴輪や武器をかたどった埴輪は，古墳や埋葬された人物を守るために作られたものです。

ここでは，３つの節を設けて王と思われる人物や，それを取り巻く武人などの埴輪を紹介します。

うろこ紋の服を着た男子
群馬県藤岡市本郷
重要文化財
個人

円柱のある家
栃木県壬生町富士山古墳
壬生町立歴史民俗資料館

挂甲をまとう男子
水戸市北屋敷２号墳
水戸市指定文化財
水戸市教育委員会

盾持ち人
つくば市中台 26 号墳
つくば市教育委員会

第２章　人々の姿

人物をかたどった埴輪には，顔をあげて両手をついた男性，両手を上に挙げたりあるいは杯をさしだす女性など，様々な所作を示すものがあります。これらの埴輪は男性は大刀を帯び，また女性の場合衣服が分かる場合は着飾ったものがあることから，身分の高い人や巫女と思われるものです。

一方で，子どもにお乳を飲ませる姿の女性など，当時の生活を示すものも見られます。ここでは，様々な姿をした人物について，２つの節を設けて紹介します。

跪く男子
伝桜川市
重要文化財
個人

乳飲み子を抱く女子
ひたちなか市大平古墳群
茨城県指定文化財
ひたちなか市教育委員会

第３章　動物たちの姿

人間や家などだけでなく，動物をかたどった埴輪も数多く出土しています。犬や馬などをはじめ，鶏や鹿，猿やムササビなどの姿もあります。

これらの動物は，古くから人とともに生活をしてきた動物であったり，あるいは狩りの対象となった動物であったりと性格は様々ですが，古墳時代の人々にとって特別な存在であったことがうかがえます。また，当時の人々が，鋭く観察していることにも驚かされます。

馬
ひたちなか市鉾ノ宮２号墳
ひたちなか市指定文化財
ひたちなか市教育委員会

鶏
水戸市杉崎 88 号墳
水戸市教育委員会

ムササビ
千葉県成田市南羽鳥正福寺１号墳
成田市指定文化財
成田市教育委員会

鹿
かすみがうら市富士見塚１号墳
茨城県指定文化財
かすみがうら市教育委員会

第４章　はにわの製作

茨城県では，埴輪を製作した遺跡が３ヵ所見つかっています。なかでも茨城町小幡北山埴輪製作遺跡では，埴輪を焼いた窯跡が 59 基も見つかり関東地方で最大規模の製作遺跡でした。また，埴輪には同じ技術で作られたものがあり，県内でも特徴的な作り方が見られます。

ここでは，２つの節を設け県内の埴輪製作遺跡を紹介するとともに，共通する製作技法を持つ埴輪について見て行きます。

挂甲をまとう男子
茨城町小幡北山埴輪製作遺跡
茨城町指定文化財
茨城町教育委員会

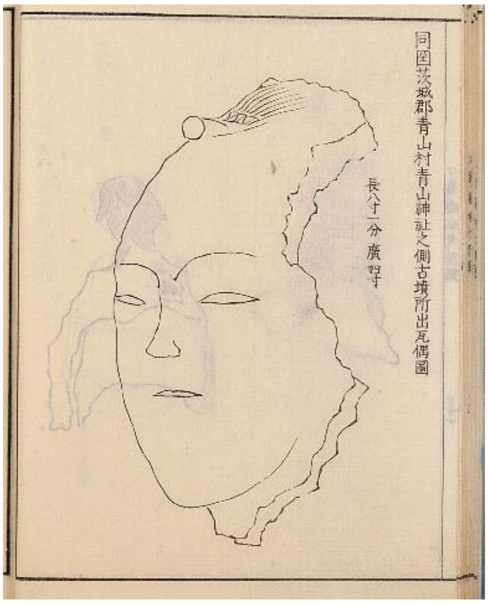
首飾りを下げる女子
東京都葛飾区柴又八幡神社古墳
東京都有形文化財
葛飾区郷土と天文の博物館

エピローグ　その後のはにわ

６世紀の関東地方では，埴輪は古墳の上に盛んに立てられていますが，６世紀も末になる

とその習慣が失われます。やがて古墳そのものも作られなくなり，埴輪は人々の記憶の中から遠ざかっていきました。

　ここでは，役割を終えた埴輪がその後の記録に表れた姿を見るとともに，現代にもモチーフとして親しまれている姿を紹介します。



『葬礼私考』
　茨城県立歴史館
「青山神社之側古墳所出瓦偶図」

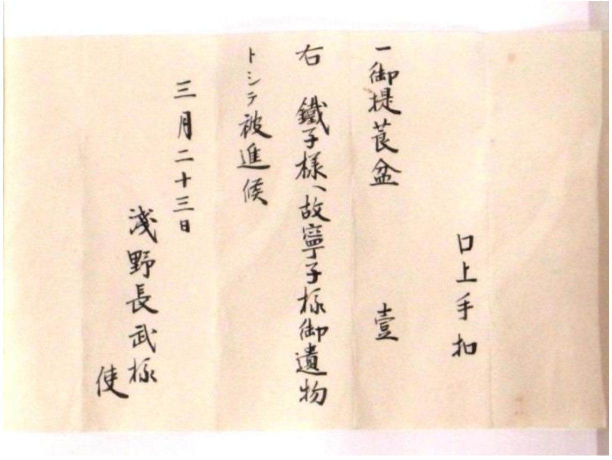
女子頭部
城里町青山
青山神社

（学芸課　首席研究員　小澤重雄）

一橋家資料「婚礼調度」

一橋家とは，8代将軍徳川吉宗の第四子宗尹が，寛保元年（1741）に江戸城一橋門内に邸を与えられたことに始まり，「御三卿」（田安･一橋･清水家）は，「御三家」（尾張･紀州･水戸）に次ぐ高い格式を誇っていました。「御三卿」は将軍家に後嗣がいないときには，将軍の後継者を提供する役割を担いました。一橋家2世治済の第一子が11代将軍家斉となり，一橋家9世慶喜も宗家を継いで15代将軍となるなど，幕政とのかかわりも深いものがありました。

江戸時代，公家や大名家の婚礼に際して整えられた調度品は，家紋を散らした豪華な意匠の蒔絵で装飾されました。その種類は貝桶・三棚・化粧道具・遊戯具･武具･飲食具・運搬具などであり，膨大な数に上りました。これら大名婚礼調度の制は，室町時代にその範があるとみられます。その形式･種類などは，尾張徳川家2代藩主光友に嫁いだ3代将軍家光の娘千代姫の「初音の調度」にみるように，寛永期にはほぼ整えられました。以後，その制が徐々に定まり，将軍家･大名･公家間の婚礼にはかならず整えられるようになりました。一橋家にも婚礼調度が残っています。しかし，婚礼調度の多くが散逸しており，セットとして完全なかたちで残っているものはありません。その理由の一つとして考えられることは形見分けです。一橋家にもこのような資料が伝わっています。



口上手扣
一御提莨盆　壹
右　鐵子様、故寧子様御遺物
トシテ被進候
三月二十三日
淺野長武様
使

書き付けには「口上手扣／一御提莨盆　壹／右　鐵子様，故寧子様御遺物／トシテ被進候／三月二十三日／淺野長武様／使」とあり，淺野家の使いの口上が手控えとして記録され残ったことにより，黒漆地裏菊紋散提煙草盆が形見分けとして一橋家に伝わったことがわかります。

慶喜三女　鐵子

鐵子とは慶喜の三女で，後に徳川達道夫人となる人物です。故寧子とは慶喜の九女經子の子恭子で，父親は伏見宮博恭王です。恭子女王は大正 7 年（1918）に淺野長武に降嫁し，後に寧子と改名した人物です。寧子にとつて鐵子は伯母にあたります。

一橋家に伝わる主なものとしては，5 世斉位に嫁いだ 11 代将軍家斉の娘賢子のもの，7 世慶寿に嫁いだ伏見宮貞敬親王の娘直子のものがあります。いずれも製作時期が江戸時代半ば以降であるため，文様は形式化していますが，大名婚礼調度にふさわしく豪華なものです。雛道具も婚礼調度と一緒に携えるのが一般的でした。そのため貝桶や三棚，化粧道具･文房具･遊戯具・武具・飲食具･運搬具など雛道具は，婚礼調度のミニチュア，いわば目録として同型式の道具組でそろえられました。一橋家に伝えられた 7 世慶寿に嫁いだ伏見宮貞敬親王の娘直子の雛道具大揃えは，その典型的な例になります。この雛道具は，貝桶・三棚をはじめ，化粧道具･香道具・文房具･遊戯具・膳部・道中揃えまで総数 110 件を超えます。実際の婚礼調度が斑梨子地で竹唐草裏菊葵紋であるのに対して，雛道具が黒漆塗りの違いだけで豪華なものです。

濃梨子地沢瀉菱唐草葵紋散蒔絵厨子棚（こいなしじおもだかびしからくさあおいもんちらしまきえずしだな）

5 世斉位夫人賢子の婚礼調度品

斑梨子地竹唐草裏菊葵紋散蒔絵鏡立・鏡家

7 世慶寿夫人直子の婚礼調度品

黒漆地竹唐草菊葵紋散蒔絵鏡立・鏡家

7 世慶寿夫人直子の婚礼調度品（雛道具）

婚礼調度は婚礼の行われた日時をもって製作の下限を押さえることができ，近世漆工芸，とくに調度形式の変化や漆工芸（蒔絵技法など）の変遷を知る上で大変貴重な資料になります。その意味で，数は多くはありませんが，歴代の調度が残っていると思われる一橋家の婚礼調度は，漆工芸の基礎資料として貴重になってくると考えられます。

一橋徳川家歴代当主と正室

世	名前	正妻(號)	納（婚姻)	正室父
1	宗尹	俊姫顕子（深達院)	寛保二年(1742)十一月二十五日	一条兼香
2	治済	寿賀宮在子(桂芳院)	明和四年(1767)十二月四日	桂宮公仁親王
3	斉敦	修君保子(靖安院)	寛政十年(1798)十一月二十三日	二条治孝
4	斉礼	近姫葆子(観光院)	文政二年(1819)四月六日	田安斉匡
5	斉位	永姫賢子(誠順院)	天保六年(1835)十一月十五日	徳川家斉
6	慶昌	なし		
7	慶寿	東明宮直子(徳信院)	天保十二年(1841)十二月二日	伏見宮貞敬親王
8	昌丸	なし		
9	慶喜	一条美賀子(貞粛院)	安政二年(1855)一二月三日	一条忠香養女（今出川公久)
10	茂栄	丹羽政子(崇松院)	安政五年(1858)二月二十三日	丹羽長富
11	達道	徳川鐵子(眞月院)	明治二十三年(1890)十二月三十日	徳川慶喜
12	宗敬	池田幹子	大正九年(1920)四月十六日	池田仲博

参考文献
・徳川諸家系譜　第三　続群書類従完成会　1988
・昭和新修　華族家系大成　下巻　吉川弘文館　1984

（学芸課　主任研究員　原口知武）

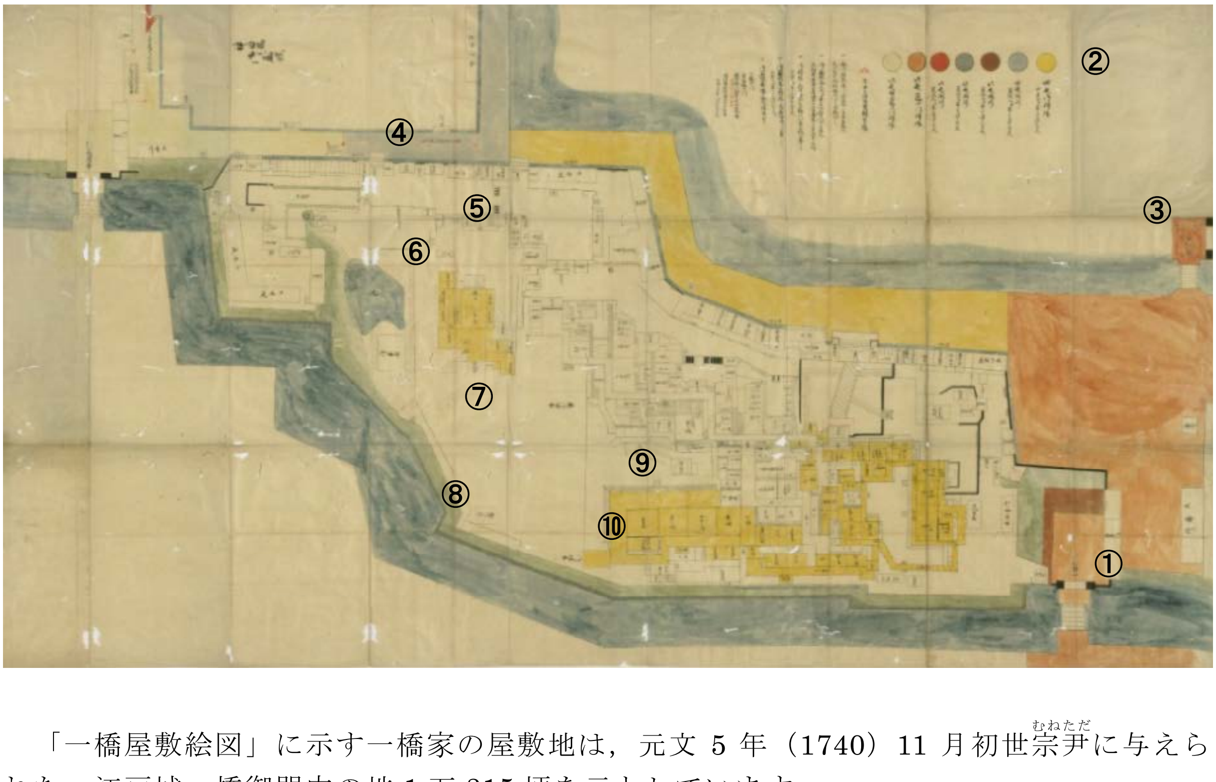
収蔵史料紹介　「一橋屋敷絵図」

茨城県立歴史館では，平成 24 年度に，一橋徳川家文書のうち初世宗尹（むねただ）から 10 世茂栄（もちはる）にいたる，主に江戸時代後期から明治初年にかけての，家譜・歴代資料，日記，御用留，家臣，領知，儀礼，家政にかかわる古文書や絵図などをデジタル化しました。これにより，上記の資料は，当館閲覧室にあるパソコンで資料の画像を「自在」にご覧いただけるようになりました。

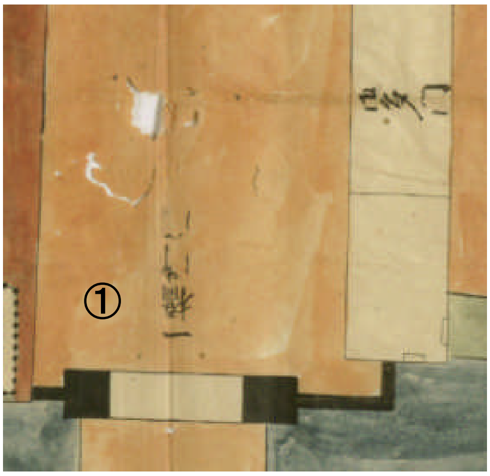
画像の拡大・縮小がスムーズであるのはもちろん，絵図など向きを変えて文字を読みたい時に画像の角度を自由に変えることや，数頁にわたる古文書に「しおり」機能を付けて，必要な部分を，比較しながら見るなど，すぐれた付属機能により「自在に」見ることができるようになっています。

デジタル化によって原本への負荷を危惧することなく，原本以上によりよく資料を見ることができるようになりました。もちろん原本を見たいという要望もあると思います。しかしながら一方で原本の保存も私たちに課せられた責務です。ぜひ，デジタル化にご理解をいただくとともに，ご利用いただいて，そのよさを実感していただければと思います。

今回は，そのデジタル化された資料の中から，「一橋屋敷絵図」（№.H1-16-6）をご紹介します。



「一橋屋敷絵図」に示す一橋家の屋敷地は，元文 5 年（1740）11 月初世宗尹（むねただ）に与えられた，江戸城一橋御門内の地 1 万 315 坪を元としています。



「一橋屋敷絵図」の右下（①）にあるのが，江戸城を固める内堀にかかる門のひとつである「一橋御門」です。この門内に居住することから「一橋家」と呼称されるようになりました。

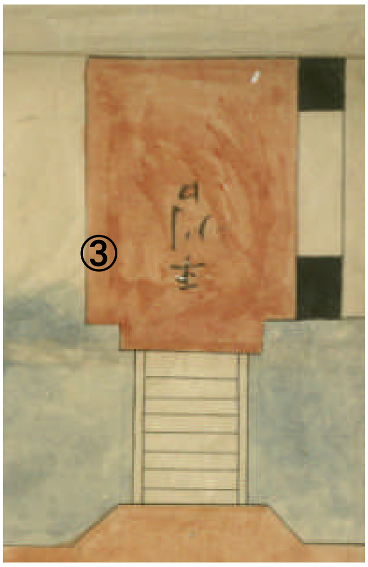
現在は千代田区大手町１丁目，丸紅本社ビルから気象庁にかけての地に相当します。当時も今も，一等地であることに変わりはありません。

寛保元年（1741）秋，屋形が完成し，11 月に宗尹は江戸城本丸から一橋邸に引き移りました。しかし，この当初の屋形は延享４年（1747）１月１日に，表六尺部屋からの出火により全焼。このため，同年８月に新築されました。ですから，この「一橋屋敷絵図」に描かれた屋形は，延享４年に新に建て直された一橋邸を元に，以後の増改築を含めた屋形ということになります。

では，この「一橋屋敷絵図」がいつ成立したかということですが，これについては明らかではありません。

絵図の成立年代を推定するために，絵図に書かれた詞書きのうちもっとも新しい年号を示すと，「寛政九巳年正月十六日」です。この前年の寛政８年（1788）12 月には，隣地の神田橋邸が焼失するという出来事がありました。それに関わり，各地所の持場を明らかにすることがこの絵図作成の目的だったかもしれません。「一橋屋敷絵図」左上（②）には，色別の凡例が示されていますが，その色分けが絵図には明確に描かれていません。また屋形もすべてが，特に奥向の領域が描かれていないので，不完全な絵図ではあります。しかしながら，一橋屋敷を表す絵図は現在のところほかにないので，貴重な資料といえます。

では，もう少し詳しく，この絵図を見ていきましょう。



江戸城は，この絵図の上方，凡例の書かれている位置になります。この江戸城へは一橋家などの御三卿は，「平川門（平河門）」（③）から登城し，御風呂屋口の玄関から入りました。御三家や諸大名は大手門から登城し，御殿玄関から江戸城に入りましたから，それらとは別格の将軍身内としての礼遇を受けていたことになります。将軍お成りの際にも，同じくこの平川門から一橋邸へ来邸しました。

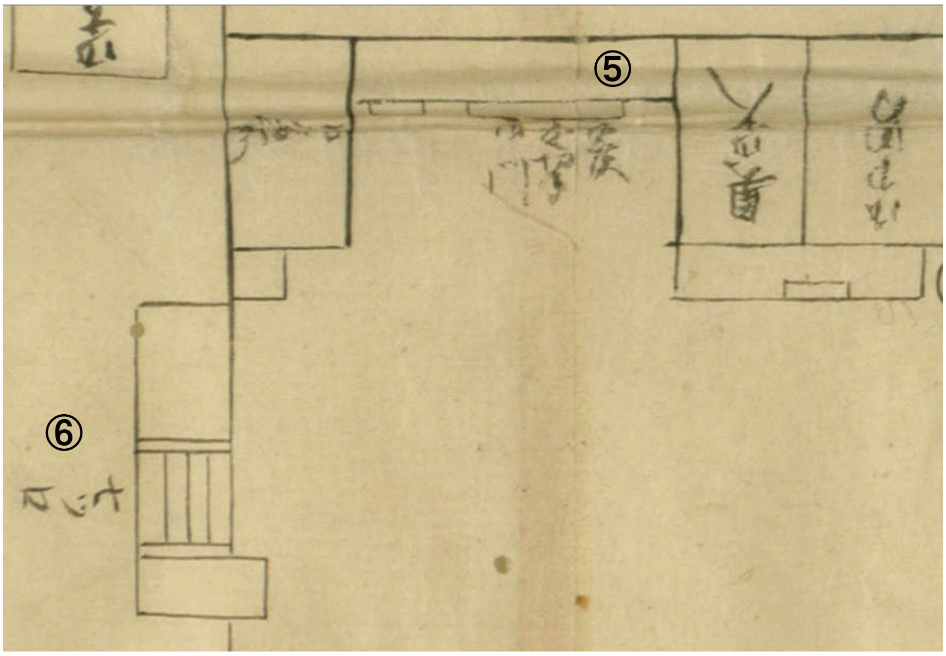
屋敷は概ね，その構造や機能から「表」・「奥」・「大奥」に区分されます。

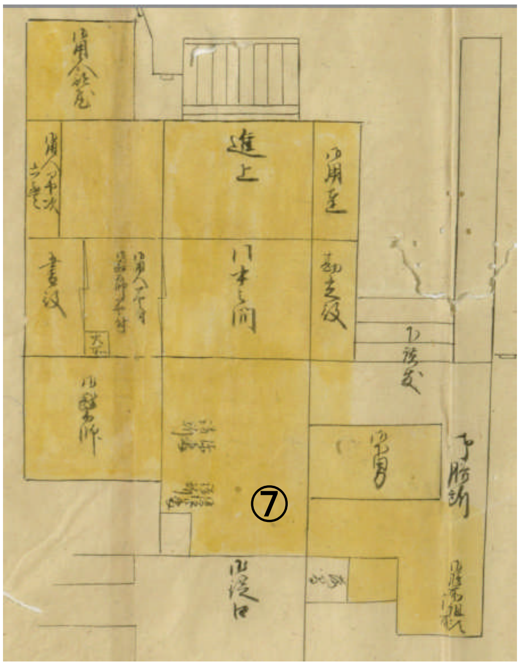
「表」は儀式や政治の場。「奥」は屋形の邸主（江戸城にあっては将軍，藩邸にあっては藩主など）が執務を行う場であ

るとともに日常生活をする場。「大奥」はその家族（正室や子どもたち）の生活の場（これを「御殿向(ごてんむき)」という），彼らに仕える広敷役人や奥女中たちの詰所（「広敷向(ひろしきむき)」），奥女中の居住空間「長局向(ながつぼねむき)」）の３つの機能と空間を備えていました。

この「一橋屋敷絵図」には「表」と，「奥」の一部，すなわち儀礼の場や，各役人の詰所，邸主が執務をとったり対面したりする公的な場は描かれていますが，「奥」や「大奥」の私的な場が描かれていません。

しかしながら，絵図に描かれている門の内に「御広敷御門」（④）とあり，さらに中へ進むと「御広敷切手御門」（⑤）が見えます。さらにはそのすぐ近くに「七ツ口」（⑥）とあります。七ツ口は奥女中の私用による出入りや，奥女中の使用人や商売人の通用口として使われ，「広敷向(ひろしきむき)」と「長局向(ながつぼねむき)」の境でした。ですから，この絵図には描かれていませんが，この七ツ口を入ったところに長局があったと推測することができます。



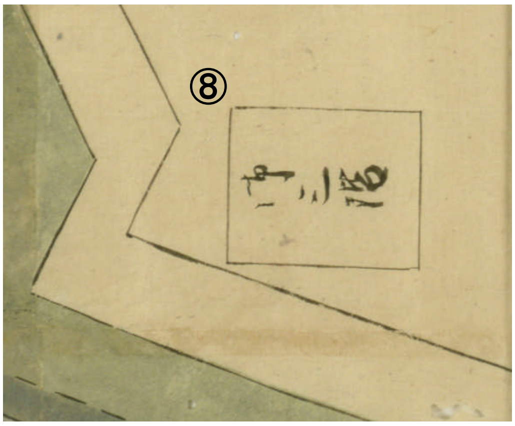


同様に「御広敷切手御門」をまっすぐに進んだ先，「一橋屋敷絵図」の左の方の黄色い部分が「広敷向(ひろしきむき)」です。ここには，男性家臣である広敷役人の詰所があります。

下の方に「御錠口(おじょうぐち)」（⑦）とあるのは，「広敷向(ひろしきむき)」と「御殿向(ごてんむき)」の境を示します。「御錠口(おじょうぐち)」の先には一橋家の家族の生活の場である「御殿向(ごてんむき)」が広がっていたと推定できます。

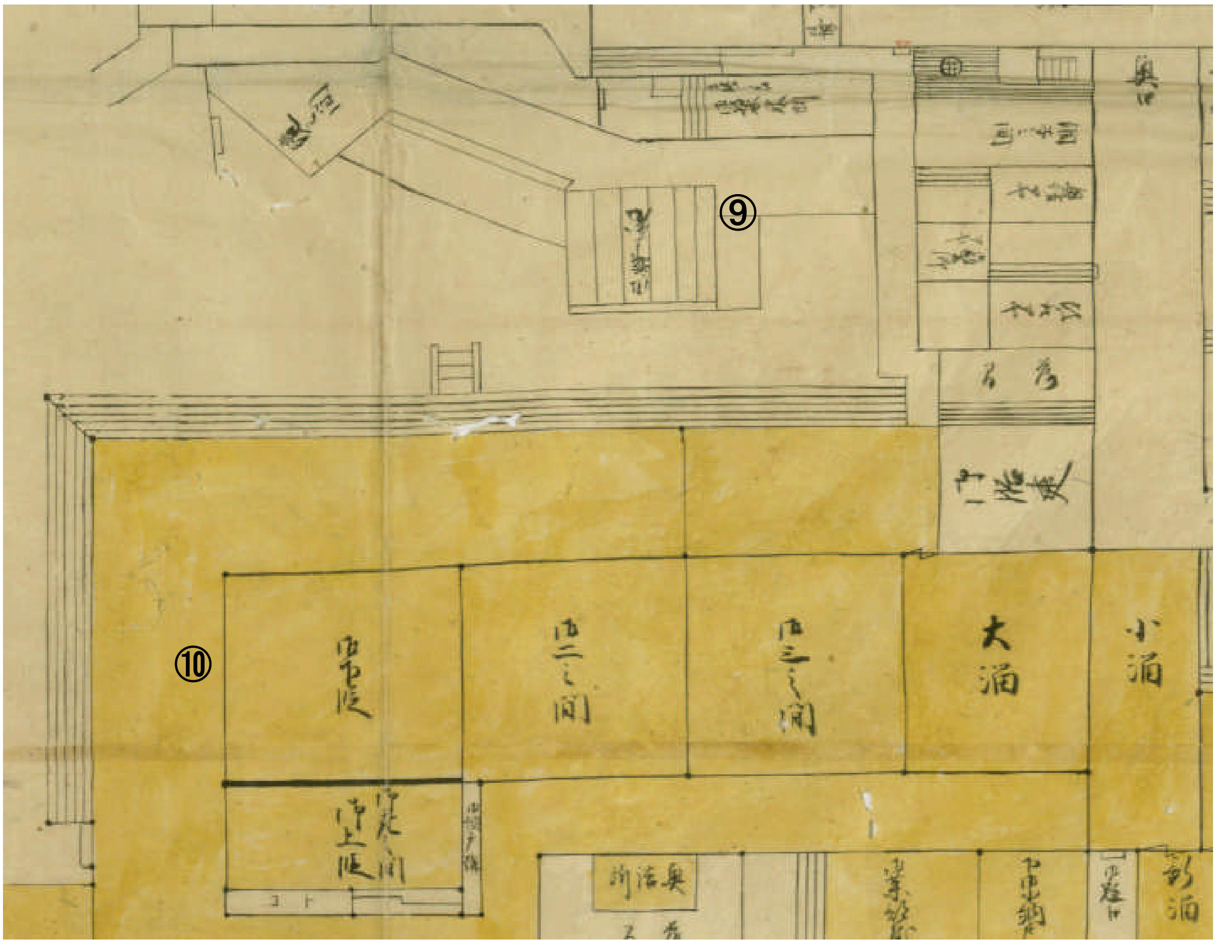
このように，絵図を丹念に見ていくことで，一橋家の屋形の構造や家臣の職制を確認することができます。絵図を読み解くおもしろさかと思います。

ところで，この絵図の中に特別な場がいくつかあります。たとえば「御三階」（⑧）と「御舞台」（⑨）です。



「御三階」は，初世宗尹（むねただ）の正室俊姫（深達院）の居所に作事されたようです。

後年，2 世治済（はるさだ）の嫡子豊千代が将軍家養子として迎えられる直前に，以前より縁女として取り決めのあった島津重豪（しげひで）の娘茂姫が，一時一橋邸に入る際には，その御三階を含めたエリアが茂姫の居所として修復されました。



「御舞台」は，治済（はるさだ）の時，安永 8 年（1779）12 月に「御座間（ござのま）」（⑩）に作られ，初めて一橋家で能が演じられました。幕府の式楽であった能には，宗尹（むねただ）も親しんだようですが，治済（はるさだ）はことのほか能の稽古に熱心で，自ら演じたほか子どもたちにも仕舞の稽古をさせたといわれています。以後，歴代の当主たちも能を愛好し，田安家・清水家を招いて能を催したり，将軍の能の相手を務めたりしました。

（歴史資料課　首席研究員　笹目礼子）

茨城県広報広聴課から受け入れた写真資料について（資料紹介）

茨城県の知事公室広報広聴課は,

1. 県政の広聴及び広報に関すること。
2. 市町村との広報の連絡に関すること。
3. 報道機関との連絡に関すること。
4. 部外各課等との連絡調整に関すること。

を分掌し，広報紙「ひばり」（年12回，毎月発行）や県民グラフ誌「フォトいばらき」（年4回発行）の発行等を通じて，わたしたちに「いばらき」を伝えることを業務としています。

同課から，式典の記録や広報誌用に撮影し，保管していた写真類を，歴史館（以下，当館）で活用できないかと相談がありました。当館では，県民生活の変遷を明らかにし，本県の各事業を記録する貴重な資料であることから受け入れを決めました。

平成24年11月7日～8日に，カードケース入りモノクロ写真32箱・カラー写真13箱，写真ネガ10箱，ポケットアルバムに収められた写真28箱が搬入されました。箱の大きさは様々で，カードケース入り写真については広報広聴課が作成した目録が添付されていました。

（受け入れ時の状況　下の写真２枚）

その後，カードケース入りの写真は，目録との照合を兼ねて，データベースの入力作業を行いました。不在の写真もいくつかあったので，それらを目録から除き，明らかに誤りと思われる記載については修正を加えました。なお，ネガ類は写真の特定が難しく容易に利用できないこと，ポケットアルバムに収められた写真は撮影分がすべて収められていることから，要・不要の判断を含めた整理をこれから行います。

ここでは，整理を終えて，目録を調えたカードケース入り写真（以下，資料群といいます。）について紹介します。

資料群はモノクロ写真7,286枚，カラー写真3,512枚の合計10,798枚からなっています。年次別に分類すると（**表１**），明治期が359点，大正期が115点，昭和戦前期が316点，戦後が6,040点，平成期が1,566点，年次不明（空白）が2,432点であり，この資料群が近･現代を網羅するものであることがわかります。

（表１　年次別点数）

年　次	点　数	年　次	点　数	年　次	点　数	年　次	点　数
明治 1	4	明治40	119	昭和13	13	昭和51	116
明治 2	3	明治41	11	昭和14	5	昭和52	196
明治 3	1	明治42	10	昭和15	9	昭和53	296
明治 4	4	明治43	18	昭和16	18	昭和54	283
明治 5	6	明治44	25	昭和17	6	昭和55	286
明治 6	2	明治45	7	昭和18	12	昭和56	306
明治 7	4	明治末	10	昭和19	8	昭和57	337
明治 8	5	大正期	1	昭和20	20	昭和58	361
明治 9	5	大正初	2	昭和21	27	昭和59	362
明治10	4	大正 1	6	昭和22	13	昭和60	190
明治11	2	大正 2	12	昭和23	6	昭和61	220
明治12	3	大正 3	7	昭和24	9	昭和62	232
明治13	1	大正 4	2	昭和25	14	昭和63	264
明治14	3	大正 5	1	昭和26	9	平成 1	241
明治15	2	大正 6	5	昭和27	9	平成 2	214
明治16	1	大正 7	9	昭和28	20	平成 3	291
明治17	6	大正 8	7	昭和29	45	平成 4	223
明治18	1	大正 9	5	昭和30	84	平成 5	140
明治19	2	大正10	23	昭和31	56	平成 6	175
明治20	4	大正11	5	昭和32	64	平成 7	282
明治21	1	大正12	9	昭和33	83		
明治22	5	大正13	6	昭和34	38		
明治24	5	大正14	5	昭和35	22		
明治25	2	大正15	4	昭和36	108		
明治26	1	大正末	6	昭和37	237		
明治27	5	昭和初	14	昭和38	120		
明治28	3	昭和 1	2	昭和39	95		
明治29	5	昭和 2	11	昭和40	146		
明治30	11	昭和 3	12	昭和41	69		
明治31	3	昭和 4	27	昭和42	177		
明治32	7	昭和 5	21	昭和43	108		
明治33	9	昭和 6	16	昭和44	108		
明治34	5	昭和 7	22	昭和45	266		
明治35	1	昭和 8	12	昭和46	142		
明治36	11	昭和 9	25	昭和47	127		
明治37	6	昭和10	26	昭和48	70		
明治38	7	昭和11	18	昭和49	182	(空白)	2432
明治39	9	昭和12	19	昭和50	105	**総　計**	**10798**

部門別の分類を表２のとおりにまとめました。小分類（空白）が多いのですが，概要はつかめるのではないでしょうか。

（表２　部門別点数）

部　門　小分類	点　数
イメージフォト	**270**
空　撮	3
日の出	9
夕　景	5
(空白)	253
コミュニティ	**54**
(空白)	54
医療衛生	**251**
がん治療	4
空　撮	1
中央病院	5
(空白)	241
茨城の味	**315**
(空白)	315
科学博	**191**
空　撮	14
(空白)	177
学園都市	**299**
空　撮	37
筑波山	7
(空白)	255
環境・原子力	**348**
霞ヶ浦環境フェア	8
霞ヶ浦浄化	8
原子力館	5
原子力博覧会	21
自然環境保全地域	13
世界湖沼会議	17
緑地環境保全地域	1
(空白)	275
観　光	**745**
グリーンふるさと	9
スポットわが町	11
ネーブルパーク	6
霞ヶ浦総合運動公園	6
空　撮	18
砂沼サンビーチ	6
(空白)	689
議　会	**330**
県議会議長	52
県議選	12
(空白)	266
教育・スポーツ	**637**
オリエンテーリング	9
笠松運動公園	15
空　撮	17
国　体	98
自然博物館	33
大洗水族館	3
男女共学	5
(空白)	457
警察・交通	**210**
空　撮	3
交通安全	6
常磐自動車道	5
(空白)	196
芸　術	**301**
(空白)	301
広報・公聴	**135**
県民の日大会	9
(空白)	126
皇　室	**143**
皇太子行啓	66
皇太子同妃殿下来県	7
国　体	1
三笠宮両殿下	1
秋篠宮殿下	3
昭和天皇	13
常陸宮	1
天皇陛下行幸	14

部　門　小分類	点　数
両陛下行幸啓	3
（空白）	34
国際交流	**134**
（空白）	134
祭	**113**
（空白）	113
鹿島開発	**593**
空　撮	65
（空白）	528
商工労働	**311**
空　撮	18
（空白）	293
常陸那珂地区	**173**
海浜公園	17
空　撮	13
（空白）	143
水　産	**230**
サケ漁	8
さんま漁	12
空　撮	2
日立港	5
（空白）	203
生活福祉	**367**
リサイクル	8
健やか家族	13
消費生活センター	6
（空白）	340
総　務	**259**
空　撮	39
県総合防災訓練	9
県立消防学校	5
消防学校	12
水戸街道	3
（空白）	191
知事・副知事	**576**
岩上知事	131
橋本知事	30
軍司直次郎副知事	1

部　門　小分類	点　数
細田副知事	4
山本副知事	2
青鹿副知事	2
村田副知事	1
竹内知事	333
竹内副知事	9
藤沼庄平知事	1
友末知事	15
歴代知事	47
土　木	**702**
空　撮	142
常磐自動車道	19
（空白）	541
動植物	**839**
魚	48
昆　虫	234
植　物	404
鳥	84
動　物	8
（空白）	61
農　業	392
園芸試験場	10
空　撮	11
（空白）	371
文化財・歴史	**1600**
茨城の古代文化展	13
空　撮	4
郡役所	4
弘道館	9
校　舎	24
三昧塚古墳	10
鹿島神宮	19
十五郎穴古墳	5
肖　像	41
常陸山	5
先史展	17
庁舎等	37
長塚節	8

部　門　小分類	点　数
東武館	6
奈良国宝展	6
日立鉱山	11
日立鉱山・肖像	1
飛田穂州	7
役場・役所	12
（空白）	1361
林業・畜産	**280**
空　撮	12
林業試験場	7
（空白）	261
総　計	**10798**

数多くの写真の中から，その一部を紹介します。

最初の県庁舎　OP-252

ツェッペリン伯号水戸南町上空　OP-611

県民文化センターオープン　OM-26

高萩大能・山間をゆくスクールバスOM-34

ここで紹介した資料群につきましては，適切な環境で長期保存を図るとともに，展示や出版物への掲載に利用してまいります。一般の皆様の閲覧利用についても，今後検討してまいりたいと考えております。

（行政資料課　首席研究員　富田　任）

トピックス

平成 25 年度　上半期の展示・行事から

歴史館コンサート　5 月 25 日（土）

スタインウェイ＆サンズ社 1865 年製のグランドピアノを使用して行われる歴史館コンサート。今回はピアノ奏者に若井優也（わかいゆうや）さん，尺八奏者に小林鈴勘（こばやしれいかん）さんを迎え，ジャズコンサートが開催されました。この日集ったのは，事前にお申込みいただいた約 50 名の方々。ジャズのスタンダードナンバー「East of the Sun」のほか 5 曲が演奏され，途中トークをはさみ終始和やかに進行しました。

歴史館探検ツアー　6 月 16 日（日）

博物館の裏側を体験できる人気のイベントです。事前に申し込みいただいた小学生の探検隊員が，普段入ることのできないエリアを見学しました。実物の古文書を間近で見たり，展示室にあるスバル 360 の運転席に座ってみたり，特別な体験の数々に隊員も大興奮の様子でした。

次回の探検ツアーは，12 月 15 日（日）に開催されます。

歴史館まつり　8 月 24 日（土）・25 日（日）

8 月 24 日（土）は古本市や歴史館ウォークラリーを中心とした庭園での催しの他，講堂において歴史講座が開催されました。午前の講座「埴輪の世界―茨城の形象埴輪とその周辺―」では，10 月 12 日から開催される特別展の世界を，担当者が一足早く紹介しました。午後には「『常陸国風土記』入門」と題して，常陸国風土記の基礎講座が行われました。2013 年は常陸国風土記編纂の詔から 1300 年にあたり，県内各地で多くの記念事業が行われています。なお，歴史館では 11 月 9 日と 11 月 16 日にも風土記関連講座を開催いたします。

8 月 25 日(日)は，各展示室の展示解説や古民家解説，よろい・かぶと体験，勾玉づくり，歴史館ウォークラリーの他，新荘小による管楽コンサート，県警コンサート，はしご車・シートベルト体験車，昔遊び・体験遊び，大きなキャンバスへの絵描き体験，カプラ（フランスの積木)，移動博物館，海の生き物タッチング，水戸第一高等学校によるお茶会，大道芸，はにわ販売，お菓子・アクセサリー販売，農産物販売など，多くのイベントが開催されました。

他，上半期には沢山のイベント・行事が行われました。

下半期にも皆様にお楽しみ頂けるようなイベントをご用意してお待ちしておりますので，どうぞお気軽にお越し下さい。各行事などについてのお問い合わせは，

茨城県立歴史館　教育普及課　電話 029-225-4425

または，ホームページの「お問合わせ」からメールをお送りください。

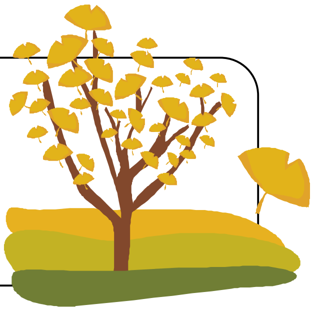
*** お知らせ **

喫茶コーナー

秋の特別展開催期間中 10 月 12 日（土）～11 月 24 日（日）の土日・祝日と，11 月 13 日（県民の日）に，挽きたてコーヒーなどをお楽しみいただける喫茶コーナーを開設いたします。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

ナイトミュージアム

11 月 1 日（金）・8 日（金）・15 日（金）は，午後 8 時まで開館します！
お仕事帰りに，ゆっくりと展示をご覧になってはいかがでしょうか。

入館無料

11 月 13 日（水）・16 日（土）・17 日（日）は，入館無料です！
ぜひ，皆様お誘いあわせの上，ご来館ください。